

平成30年度 第5回市長タウンミーティング概要

と き：平成30年4月22日（日）
午後2時30分～4時
ところ：中央公民館
参加者：113人

○市長あいさつ

（市長より、平成30年度の施策・予算についての説明が行われました。）

○意見交換

質問(男性)

先ほど、市長から平成30年度の施策についての説明の中で、障害福祉について触れていませんでしたが、知的障害がある人の通所施設は1か所しかなく、入所施設は1か所もありません。その点について、どのようにお考えでしょうか。

回答(市長)

障害者福祉については、今年度から3か年計画の第5期蕨市障害福祉計画・第1期蕨市障害児福祉計画がスタートしていますが、策定に当たっては各福祉関係団体の皆さんからのヒアリングや障害のある方へのアンケート調査などを実施し、計画づくりを行ってきました。

通所施設については、平成24年度に総合社会福祉センター内のハート松原を多機能型事業所スマイラ松原に移行した際に、生活介護の定員を20名から45名に拡大しましたが、この定員もいっぱいになったことから、市内で2か所目となる生活介護事業所「風」（定員20名）を、この4月に交流プラザさくら1階に開設しました。

入所施設については、私自身、整備の必要性は十分認識していますが、国は、入所施設よりもグループホームの整備を進める方針で、原則として入所施設の整備を認めておらず、入所施設の整備を行う社会福祉法人では、国の補助金がなかなか認められないという問題があります。更に、蕨は土地の価格が高く、市域が狭くまとまった土地の確保が難しい面もあります。こうしたことから、3期目のマニフェストで「障害者入所施設の広域的検討とグループホームの整備」を掲げ、障害保健福祉圏域である蕨・川口・戸田の3市の担当者による事務協議や情報交換をはじめ、それらの地域の法人とも連絡を取り合ってきており、引き続き、

入所施設の広域的な検討を進めていきたいと思っています。

障害保健福祉圏域である川口市、戸田市との3市で広域的検討を進めているところです。現在、3市の事務協議を行い、県内の入所施設整備状況や重度障害対応のグループホームに関する情報交換を行っており、障害保健福祉圏域での提供事業者の確保に取り組んでいるところです。

質問(男性)

蕨駅西口再開発事業について、市民は高い関心を寄せていますので、どのような施設がいつ頃までにできるのか示してください。

また、7番街区の再開発のときは、市民懇談会のような会が設置されたと記憶していますが、今回の再開発を進めるに当たり、早めに市民の意見を聴収する場を設けてください。

回答(市長)

蕨駅西口再開発事業については、3期目のマニフェストで、「蕨の玄関口にふさわしい蕨駅西口再開発の推進」を掲げており、主な内容としては、駅前広場の拡幅整備や新たな賑わいの拠点となる商業施設の誘致、公共公益施設の整備、街なか住宅の整備などとなっています。公共公益施設の内容については、現在、庁内の検討委員会で検討しているところですが、30年度は、実施主体である蕨駅西口地区市街地再開発準備組合の事業計画策定に対する補助や都市計画の変更についても行う予定です。スケジュールについては、先行した7番街区の事例を参考にすると、都市計画の変更から7、8年で完成の見通しです。

また、市民の皆さんからご意見を伺う場として、都市計画変更に当たっての住民説明会や公共公益施設の方針案に対するパブリックコメントなどを予定しています。

質問(男性)

これまでの間、公共施設等の耐震工事に多額の予算が使われていると思いますが、そのためにほかの予算を削減されているのでしょうか。

回答(市長)

他の予算を削るというよりは、予算の使い方の重点を変えるなどの工夫をしています。例えば、大型開発の見直しとして、市の負担が80億円程度想定され

ていた中央第一土地区画整理事業については、今ある道路を活かして現在の建物の建て替えのときなどに合わせて拡幅整備するといった地区計画制度を用いたまちづくりに転換し、市の負担が大幅に軽減されました。また、職員についても、少数精鋭の職員配置により、人件費を抑制してきています。

質問(女性)

先ほど保育園の増設の話がありましたが、我が家の1歳になる娘を預けることができました。蕨は、児童館や子連れで楽しめるお店なども多く子育てに本当に便利で、他市のママたちに鼻が高い思いをしています。ただ、子育てママどうしの交流の中で、線路を挟んだ塚越とそれ以外の地区が、どうしても分かれてしまっているような印象があります。そこで、東西をつなぐ橋りょうはありますが、線路の下を通る地下スロープなどを整備し、交流しやすいようにしてはどうでしょうか。子どもやお年寄りの方にとっても便利だと思います。

(市長)

東西を結ぶ地下通路があれば便利だとは思いますが、地下道を作る際のスロープの確保を考えると、蕨の道路事情では大変難しい状況です。私自身、東西を行き来しやすい工夫は大切だと考えており、市長就任後、これまで蕨駅になかったエレベーターを設置したことで、子育て中の皆さんにとっても気軽に行き来しやすいようになりました。また、市内を運行するふらっとバスについても、3期目のマニフェストに「ルートの拡充」を掲げ、市内を行き来しやすいような改善に向けて検討を進めていますので、そうしたことで、更に子育て中の皆さんの交流が広がればと思っています。

質問(女性)

まず、1点目ですが、民生委員の方が訪問に来た際に、生年月日が記入されている一覧を持っていましたが、個人情報保護の観点から大丈夫なのでしょうか。

2点目ですが健康管理のために検診が重要だと考えていますが、胃がん検診の胃内視鏡検査は定員ではなく、希望者全員が受けられるようにしてください。

3点目ですが、昨日、市立病院で人間ドックを受診しましたが1日の受入れ人数をもう少し増やしてはいかがでしょうか。また、受診後の食事の内容についてもっと充実させてください。

回答(市長)

1点目の民生委員の皆さんについては、高齢者の見守り活動をはじめとする

福祉活動を行っていただいております。蕨の住みよいまちづくりにおいて重要な役割を担っております。そうした活動上、必要な情報はお伝えしていますが、民生委員の皆さんには守秘義務がありますので、個人情報もしっかりと守られています。

2点目の胃がん検診については、60歳以上の方を対象に、従前の胃部エックス線検査に胃内視鏡検査を加え、どちらかを選択できるように改善をしました。胃内視鏡検査の定員については、医療機関の受け入れ可能人数との関係で、定員の枠を設けざるを得ませんでした。希望者が多いことから、昨年度は、蕨戸田市医師会との話し合いの中で、定員を300人から500人に拡充し、更に今年度は100人増の600人に拡充しましたので、ぜひ、多くの方に受診していただきたいと思っております。

3点目の蕨市立病院の1日の受け入れ人数については、市立病院にかかわらず、医師の体制や1日にできる検査人数などがあり、定員を増やすことは難しい面があります。また、人間ドック後の食事については、市立病院に伝えたいと思っております。

質問(男性)

市の人口は年々増えており、市民税についても年々増えていくものと思われませんが、趨勢として、非課税世帯及び生活保護受給世帯の動向について、お聞きしたいと思います。

回答(市長)

市民税については、人口増に伴い、課税対象者は増加傾向にありますが、非課税世帯の統計はありませんので、その動向については、正確に申し上げられません。生活保護受給世帯については、全国的な傾向として、平成20年のリーマンショック後に増大し、近年では、高齢化が進むなか、低年金や無年金で老後を迎え、生活保護を需給する高齢者が増えてきていますが、蕨では、ここ数年横ばいであり、28年度は微減となっております。

なお、市税の収納率は、6年間連続して上がっており、今後も市の財源確保に取り組んでいきます。

質問(男性)

まず、1点目に蕨駅西口の青年の像の後ろに幼稚園の看板が設置されているが、景観の観点から移動できないでしょうか。2点目に新庁舎の建設について、1階や2階については、蕨らしさを出すために和風な造りにしてほしいと思

ます。3点目は双子織についてですが、東京の方でもある程度知られるようになってきていると思いますので、販売店の拡大をしてほしいです。

回答(市長)

1点目の看板については、JRの敷地内にあり、JRが有料広告の収入を得て実施していますので、市で移動することは難しいと思っています。また、駅前の大きな看板については、埼玉県屋外広告物条例で規制がありますが、その点についても、看板の大きさなどから基準を満たしていますので、ご理解をお願いいたします。

2点目の新庁舎の建設についてですが、今年度、新庁舎の設計や工事を進めるうえで根幹となる蕨市新庁舎建設基本構想・基本計画を策定します。いただいたご意見も含め様々な観点から議論していくことは大切だと考えており、市議会議員や学識経験者、公共的団体の代表、公募市民で構成する審議会を設置するほか、市民アンケートを実施し、検討を進めていく予定です。整備に当たっては、財政負担のバランスを考えながら、市民サービスや災害対応の拠点としての機能はもちろん、市民の皆さんにとって、使いやすく親しまれ、将来にわたって安心して使い続けることができる施設にしていくことが重要であると思っています。

3点目の双子織の販売店については、お話のありましたように、双子織を使ったさまざまな商品が販売されて、人気も高まっています。現在、個々の店舗のほか、蕨商工会議所では、窓口での取り扱いのほか、インターネット販売も行っていますが、販路の拡大をはじめ、店舗のPRはとても大切ですので、商工会議所に伝えておきたいと思います。

質問(男性)

蕨の公式マスコットキャラクター・ワラビーくんをもっと活用して、蕨市のPRに努めてください。市の職員が勤務時にワラビーくんTシャツを着用してPRしてみてもいかがでしょうか。

回答(市長)

蕨市では、平成28年度にわらびシティプロモーション指針を策定し、蕨の地域資源や魅力を市内外にアピールし、蕨のまちを広く知っていただくとそのPRに努めているところです。

市のマスコットキャラクター・ワラビーとエンジェルわらぶーについては、平成27年度に、新たに着ぐるみを製作し、機まつりや宿場まつりなど、各種イベントに参加しているほか、昨年度には、縫いぐるみの製作販売や原付バイク用ご

当地ナンバープレートのデザインに採用するなど、活用を広げています。ご意見にありました職員が勤務中にワラビーTシャツを着用することは、職員の服装として適切かという面もありますので、今後もキャラクターを活用して、まちのPRに取り組んでいきたいと考えています。